



通年コース第一・二回開催報告

『二日目にやつと晴れて植林』

測樹に出るつもりで二日目に参加したら、当てが外れて植林をやらされてしまった小野さん。根が乾かないうちに所定の本数を植えきってしまおうとハツパ

をかけられ「人使いの荒い塾だね」と苦笑。

一日目はずつと本降りでも植林ができる状態ではなく、急遽日程をひっくり返させていただき、初日は測



ここは傾斜が30度近い。人海戦術で植える

発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
 編集 早川清志
 題字 島崎洋路

樹、二日目が植林となりました。その二日目も朝方まで土砂降り、これで現場に出られるのだろうかと不安になりましたが、八時過ぎにはぴたりと止み、昼前にはカンカン照りになってきました。

先生方がおっしゃっていたようにプロは一日で二百本くらいは植えてしまうという事ですが、今日は実質二十人ほどで九百本弱。平均して四十五本。実働三時間程度で植え終わったところを見ると、早さはプロ並だったかもしれません。プロの小野さんがあつたのもうなずけますね。二時半くらいには何とか植え終わりました。お疲れ様でした。大汗でした。

とまれ、植林と測樹の第一回開催開催から始まる今年の通年コースの幕が開きました。遠くは神戸の井伊さん、千葉の小栗さんをはじめ十七人の一年目の方が参加してくれました。また二年目とOBの登録は十四名の方、都合三十一名のコースとなります。今年一年よろしくお願ひします。



ひよろ長い根を丸めて植えてはいけません

通年コース第一・二回 4月25日(金) 測樹

8時30分 鳥崎先生の山小屋に集合。先生方のあいさつ。事務局からの説明など。

朝から雨。とても植林はできそうもないので日程をひっくり返して測樹ということにしてもらう。

事務局不行き届きで連絡できなかった方、申し訳ありませんでした

9時30分 山造りの考え方および測樹についての説明

11時30分 昼食。現場で作るはずだった豚汁を今日は小屋で作る。完成が遅れたこと、体を動かしてないことなどで売れ行きはいまいち。雨は少し小降りにはなってきたものの止む気配はない

12時40分 合羽を着てます

みヶ丘平地林の中村山林へ。ここは昔森林塾で間伐や枝打ちなどさせてもらったところ。4mの釣り竿を使い円形プロットでの調査。何ヶ所か設定し、直径巻尺で胸高直径を計る。またそのうち何本かをワイゼやブルーメライスで樹高の測定。手入れから九年たつてまだ少し込んできた感じでした



思いおおいにお弁当



ナタなどで切りこのように短くします

2時 小屋に戻ってデータ整理。現況調査表の材積合計まで計算する。普段数字を使い慣れてない方も見えると思いますが、この辺りで音をあげてしまつと次回の施業診断が大

変なのでデータ整理はしつかりと

3時30分 お願ひしていただいたミス水鋼機の荒井さんがナタ、ノコなどの見本を持って登場。いつも森林塾でお世話になつてい



暑い最中、もうひと頑張り

ます。通年コースに参加される方はできればマイなた、マイのこ、マイヘルメットは揃えていただけたらと思います

4時10分 本日のまとめ、とりあえず終了。

6時 交流会開始。島崎先生の馬肉、保科先生の行者にんにくなど、おなじみの差し入れとなんでも鍋に舌鼓を打ち、鳩吹の夜は更けてゆく



4月26日(土)
植林

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。夜中の風雨は朝方には収まったもののいまだに曇天。天気予報では午後は晴だが、様子見もかねて40分ほど昨日の復習と丸太材積の出し方

9時20分 下殿島区有林に向けて出発。もう天気は大丈夫

10時 現場着。まずは保科先



わき目もふらずもくもくもく

生の説明。お手本。ひよろ長く伸びた根を丸めて穴に押し込まないこと。根回りに戻す土には枯葉や枝を混ぜない事。根回りは足で踏んで土を固めておく事など。

根を短めに切つてさあ植林開始。

三年物のヒノキ苗を今年は干本用意しましたが、割り箸でマーキングしたところ九百本弱。一ヘクタール三千本植え(坪一本)ですから面積にして三反部ほどか。残った百本を仮植える。

山火事の跡地だけに燃え残りのアカマツ丸太がゴロゴロで地ごしらえには随分苦労しているところ。等高線に沿って編に並べ、その間に植えることになりまし

相当暑くなってきた。「根が乾かないうちに植えてしまおう」と島崎先生



慣れない手つきで

の激が飛ぶがまだ三百本くらいは残つていそう

12時20分 やっぱり昼飯にしよう。苗を乾かさないうちに注意。

思い思いの場所でお弁当。やはり現場で食べるお弁当はこのほか

1時10分 午後の部開始。休んだ事と、慣れてきたこともあって快調に植え進む。最後の北向き斜面に植えて

2時30分 植林終了。お疲れ様

3時30分 小屋に戻り先生方の講評。昨年と同じく、とても丁寧な植えていただいたので百%に近い活着が期待できるのではないかとのことでした。ありがとうございました。下刈りのときにまた訪れる予定です。うまく根着くか乞うご期待

参加者/相内さん、阿部さん、井伊さん、大河内さん、岡崎さん、小栗さん

さん、小野さん、椎名さん、重松さん、園田さん、滝口さん、武田さん、永井さん、西村さん、日比野さん、茂籠さん、矢島さん、江尻さん、斎藤さん、風見さん、長坂さん

講師/保科先生、島崎先生

スタッフ/後藤、川島、平林、椎原、坂野、早川

取材/映像プロダクションフィールドワーク

次回以降の予定
第三回 5月23日(金)
施業診断・林木評価等



ワイゼ測高器、プランプランを止めるタイミングが難しい

測樹でのデータを分析する事により、その林分が現在どのような状態であるかと言う事がおおよそわかってきます。そして例えば20年後にこの林分はどうなっているかという事



雨中の測樹、輪尺で胸高直径を測る



円形プロット、4m竿で50㎡のプロット



こちらは直径巻尺、斜めに巻かないでね

8時30分に島崎先生の小屋集合。電卓、筆記用具をお忘れなく。

担当は島崎先生です

第四回 5月24日(金) 樹木分類

ほんの数十年前までは、多くの種類の木のかかわりの中で私達は暮らしてきました。今ではそれらと直接関わり、利用する事は少なくなっ

てしまいました。名前や性質を知れば、友達が増えたよ

うな、ちょっと心が豊かになったような気がするものです。身近な木の名前や特徴などを覚えてみましょう。
8時30分に島崎先生の小屋集合。あれば樹木図鑑。標本

第五回 6月20日(金) 伐木造材

担当は島崎先生です

立木を切り倒して決まった長さの丸太にすることです。木を思った通りの方向に倒すにはある程度の技術が必要です。今回はその第一歩ということになります。まずは山の手入れに欠かせないチェーンソーの扱いに慣れてもらいます。そして木を倒してみま

8時30分に島崎先生の小屋集合。場所未定。担当は保科先生です

第六回 6月21日(土) 下草刈り

担当は保科先生です

植栽後数年は下草を刈らな

いと草や灌木に負けてしま



リレー通信

「私のやりたいこと」 相内正豪

にまとめる作業です。春はカワトンボのたよりなく飛ぶ姿に不思議さを感じ、そのトンボの生息する湧水を起源とする小川のきれいな水と水量の豊かさに感動したり、夏には蒸し暑い斜面の中を草花やカエル・ヘビなどの小動物を探しに汗をかき歩き回ったことが思い返されます。

また、その頃雑誌で知った

軽井沢の野鳥の森に行き出したことも野鳥をはじめ自然との関わりが深まった一因だと思われ

ます。野鳥の森は、面積百ヘクタールあまりで、標高は約九百八十メートル、千九

十メートルで標高差が小さく、山頂部は高原状のなだらかな地形とな

っています。全山カラマツが多く、沢にはハルニレなどの渓谷林が残

っています。五月の連休、夏休み、冬休みなどを

利用して年に二、三回行って

いますが、その時々

にインストラクターに森を案内してもら

うことが、季節調節の生き物

を知るよい刺激となり

ました。

アカハラ、アオ

ジ、オオルリ、ノ

コ、コルリ、アカ

ゲラ、コガラ、イ

カル、ヒレンジャク

などの野鳥を

はじめクマ、カ

モシカ、ウサギ、ム

ササビ、リスなど

の哺乳類、ミヤマ

カラスアゲハ、ス

ジボ

ソヤマキチヨウ、イチモンジ

チヨウ、ホシミスジ、クジャ

クチヨウ、エルタテハなどの

チョウ類がみられます。まさに

高標高地の多様な生き物の生息する森です。

軽井沢の森にこのように多様な生き物があるとすれば、より身近な東京の高尾山の森にももしかしたら多様な生き物がいるのではないかと。

軽井沢へ行って間もなくして

から、二箇月に一回程度高

尾の森へ通うようになりまし

た。高尾山は、標高約六百

メートルと比較的低い山です

が、麓は約二百メートルであ

り、標高差のある山です。し

かも急斜面がほとんどです。

奈良時代に僧行基が開山した

といわれており、天然性のカ

シ類(南斜面)、イヌブナ(北

斜面)などをはじめ植栽した

スギについても太いものがた

くさん見られる貴重な森で

す。

オオルリ、ヤブサメ、ヒガ

ラ、ヤマガラ、ウグイス、メ

ジロ、イカル、アオゲラ、ジ

ョウビタキ、シロハラなどの鳥

類、ウサギ、リス、ムササビ、

テン、タヌキなどの哺乳類、

テングチヨウ、ミスジチヨ

ウ、ヒオドシチヨウ、ゴマダ

ラチヨウ、スミナガシ、モン

キアゲハなどのチョウ類など

里山の多様な生物が生息して

います。

軽井沢に居て高尾山に居な

いもの、またその逆、あるいは両方に共通するものなど様々考えると、結局標高、緯度、方位、地形などの違いからくる植生の違いが生き物の違いに影響しているのではないかと。軽井沢や高尾山にどんな植物が生えているのか、異なる植物は何か。興味はつきません。いずれにしてもそこに生えている植物の違いが、動物の違いを生み出す大きな原因になっているのではないかと。つまり、森の植物の違いが森全体の生き物に深く関わっているのではないかと。しかも、良好な森の存在が多様な生き物の生息にとって重要ではないかと思われてきました。

森の樹木は、用材になったり、燃料になったり、あるいは森全体として水源涵養の機能をもったりと森は多くの機能をもっていますが、生き物の棲みかになっているのも事実です。森に生息する多様な生き物がバランスをとっている間は植物との共存も可能であり、用材や燃料の供給が続けられ、水源涵養機能も発揮され続けます。

現実の森をみると手入れの入っていない暗い森が多く、生き物も少なそうです。森は様々な機能を発揮させるともに多様な生き物の棲む森であることがベストではないか。こんな思いを抱いている

時に、たまたま島崎先生の森造りについての雑誌や著書を拝見し、この森造りが生き物の棲める森造りに応用できるのではないかと思われました。

一案としてできるだけ様々な樹種(様々な実を着ける樹種を植えるが、これらは用材としての価値の有るもの無いもの混じってよいと思う)からなる樹齢百年〜二百年位の森を仕立てるのがよいかと思います。沢には沢で良く育つ樹木を植え、中腹には尾育つ樹木を植え、尾根には尾

リー通信

“森林塾に参加するにあたって”
井伊 秀博

森林塾集中コースに参加するために 神戸から電車を乗り継いで初めて伊那市を訪れたのは、二千年秋のことでした。晩秋の装いの山々に明るい日がさしてとてもすがすがしい日でした。若いときから登山を通じて山に関心があった私はある時新聞で森林の手入れという視点を変えた山への関わり方を知り、日本の人

根でも育つ樹木を植えます。林内には伐採搬出のための作業道を作りますが、この道はこの他動物が移動したり、人が散策できる道として機能させます。

私は、この生き物の棲める森を作るにあたり、KOA森林塾でこれから学ぶ事や今までの体験を生かし、森造りにあつたの事前事後の調査、実際の森造り、森のできて行く過程でのガイドなど森造り全般については是非関わりたいと思っています。



工林が抱える深刻な状況改善に少しでも力になれないかと考え大阪近郊で森林ボランティア活動に参加していましたが、技術的にも知識面でももっと勉強の必要性を観じていた時に、NHKの番組で島崎先生の存在を知りました。すぐさま先生の著書「山造り承ります」を購入し読んだ後は、もう森林塾に参加したいと自分の気が済まなくなっていたのです。そしてその年に参加した集中コースの内容はその奥の深さを十分示してくれました。

あれから三年たった今年の四月二十五日開講日の朝、島崎先生や保科先生、講師の方々にはお変わりもなく又山小屋も看板も周りの山々もそのまま、懐かしささえ感じました。ようやく念願の森林塾の通年コースに入塾でき勉強できる事を 今大変嬉しく思っています。

「山造り承ります」の中でKOA森林塾の目的の記載があります。私はこのうちの二番目にかいてある「地域内外の山を持つていない人にも山造りの考え方と技術を身につけて貰い、必要な時や要請を受けたときにそれを生かし山造りをして貰いたい」人に該当します。

つまり私は、山持ちでも林業家でも有りません。都会の部品メーカーに勤めるサラリーマンですが、できれば森林・山造りのプロになりたいという思いがあります。

すでに年齢五十を迎え、いままら何を戯言を...と考えないこともないのですが、足腰がしつかりし

ている内にこれからの生き方として森林に関わって暮らす道筋をみつければよいと思っております。だから森林塾で学ぶこの一年は自分にふさわしい山への関わりかたを考える上で重要な期間となるでしょう。とまあ少々肩に力が入り過ぎの決意表明はこの位にして。

第一回は雨の中の測樹と集計作業と翌日のさわやかな五月晴れの下での植樹作業で滑りだしはまずまず。これから講義が楽しみで、これから講義を終えた帰り道では遠く高く南アルプスの甲斐駒ヶ岳と鋸岳を見ることが出来ました。二十年前四季を通じて通った場所です。この伊那谷の風景と斜面を吹き上げる高原特有のさわやかな風に触れることができたことも嬉しく思っています。

今後ともよろしくお願ひします。

コラム

いつも山にいるときには上方に目をやっていることが多いのだが、この季節ばかりは下層植生が気になってしょうがない。

わらび、こごみ、たらの芽、こしあぶら、というところかな。里山では、たいてい採り尽くされていることが多い、「あつた!」と思ってもその新芽はきれいにみがれ、一本棒になって立ちつくしている

るだけのタラノキだったりする。

先日、山仕事の帰りに汚い恰好のままコンビニで買い物をしたら、レジで「山菜採りですか?」と聞かれ、近からず遠からずの問いに「ええ、まあ。」と言っしかなかった。春になって我が家の食卓に並んだ季節の食べ物は、フキみそに始まり、ナズナのおひたし、菜の花のおひたし、コゴミのおひたし、ノビルのおひたし、ノカンゾウの酢味噌あえ、タラの芽の天ぷら、コシアブラの天ぷらとおひたし。一年に一度しか食べられないほろ苦さわやかなラインナップなのでした。

旬の物 摂れば 命の 泉湧く 嘘子

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。
TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994

E-mail:
ki-hayakawa@koanet.co.jp
sh-sakano@koanet.co.jp
mi-tsuboki@koanet.co.jp
携帯:0902-53-26375 (開催日)
H.P.http://www.koanet.co.jp

